

乳児期からのステロイド使用と全身感染を経て通院を終えた小児アトピーの経過 (4 歳 男児)

症例 ID：001-04-MU1 | 記録日：記録日不明

1. 診断・治療前経過

生後 2 か月に皮膚の乾燥からアトピーと診断され、抗アレルギー薬とステロイド外用薬を使用しました。4 歳を過ぎても同様の状態が続きました。

薬を中止して自己流の治療を行ったところ約 6 か月で悪化し、感染、膿、発熱を伴いました。その後再びステロイド外用を続けましたが、さらに強いリバウンドが起きました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	生後 2 か月頃から抗アレルギー薬とステロイド外用薬を使用し、中止と再開を繰り返しました。
製品名	製品名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	生後 2 か月頃から 4 歳以降まで断続的に使用しました。
中止時期	松本医院受診の約 1 か月前です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 2 か月頃	発症・外用開始	乾燥性の皮膚症状に抗アレルギー薬とステロイド外用薬を開始しました。
4 歳以降	中止・自己治療	薬を中止して自己流の治療を行いました。
中止約 6 か月後	悪化	強いかゆみ、膿、感染、発熱が出ました。
その後	ステロイド再開	再び毎日ステロイド外用を行いました。
受診約 1 か月前	再中止	ステロイド中止後に以前より強い全身症状が出ました。
治療開始後約 1 か月	ピーク	全身炎症、ヘルペス感染、出血、浸出液、微熱が続きました。
治療約 6 か月	改善傾向	掻き壊した部位が数日で治るようになり、炎症が全身から部分的になりました。
治療約 1 年半	経過後	皮膚炎は部分的に残る程度となりました。
その後	通院終了	皮膚症状が落ち着き、来院しなくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後の約 1 か月間、全身の炎症とヘルペス感染により血と浸出液が広がり、微熱が約 2 週間続いた時期です。

5. 困りごと

- 消毒時の痛みで子どもが泣いて逃げるため、処置に 30 分以上かかりました。
- 夜間に何度も目を覚まし、朝には寝具が血で汚れていました。
- 感染と発熱を伴い、家族だけでの対応が難しい時期がありました。

6. 経過のまとめ

治療約 6 か月頃から皮膚の治りが明確になり、約 1 年半後には皮膚炎は部分的に残る程度となりました。その後は皮膚症状が落ち着き、通院の必要がなくなって来院しなくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。